SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.70-1
2017年３月号

自転車文化の底上げを担うサイクルイベント（前編）

「等身大の試みが大きな変化を生みだす」

マウンテンバイクを使った日本初のライリーレイドイベント「とれとればいく」の企画立案やトレジャーハント・ツリーリングというこれまでにない、新しいサイクルツーリングイベントを企画した石丸英明氏は、「大勢が集うフェスティバル系のイベントや、チャンピオンスポーツであるレースイベントも大切ですが、誰も楽しくが参加できる身近なイベントが多くあった方が、自転車文化の底上げにも寄与し、結果ショップでの顧客確保にもつながる」と話します。
そこで、今回から２回に分けて、石丸氏からお聞きした自転車との出会いから、サイクルイベントに関わった経緯をご紹介します。

編集）石丸さんと自転車との関わりは、いつごろから始まったのですか？

石丸英明（以下：石丸）僕は山口県の岩国生まれで周囲には自然が溢れていました。中学生になると一緒に山登りをする仲間ができ、その仲間たちとあるとき自転車で集合したのです。集合場所には、普通なら親に車で送ってもらったり、あるいはバスで来たりするのですが、その時は全員が自転車で来ました。山には登らず、お弁当も持参していたので自転車の遠乗りをしたのです。その時の楽しさは格別でした。それからサイクリングに夢中になりその後、高校生になると1974年にブリヂストンからロードマンが発売され、輪行がはやりロードマン・ブームがありました。友人のほとんどがスポーツ用自転車に乗っており、クラスの男子の半分以上がサイクリングをしていました。しかし、回数を重ねるうちに「自転車の遠乗りは辛いよね」ということで離れていく人も増えていき、最後にはクラスに僕一人になり、他校に仲間を探し二人で活動しました。

大学はサイクリングクラブがある学校へ行きたかったのですが、それ以上にモノを作ることに興味があったので、自分で自転車のフレームを作れるようになるために金属材料科や溶接科のある学校を探しました。すると、当時『職業訓練大学校』という、学費も安いまさに僕の希望に沿う学校があったのです。

編集）学生時代までは、趣味として楽しまれていたサイクリングが、どのように現在の仕事へとリンクしてきたのですか？

石丸）学生時代の自転車日本一周で訪れた長崎に「暮らすのならここだと！」と感じて、長崎出身の同級生を頼って造船関連の会社に就職しました。ところが実際に暮らしてみると、情けないのですが、長崎の夏はとても暑くて、１年半我慢して２年目の夏にギブアップしてしまったのです。そして一度実家に戻り、次に何をしようか考えた末に、やはり自転車関係の仕事をあきらめることができず、東京都町田市の自転車ショップに店長として務めることとなりました。

石丸英明（いしまる ひであき）
1959年山口県岩国市生まれ。サイクルイベントプロデューサー。
造船所勤務、自転車ショップの店長を経て、株式会社シマノのプロモーション企画に参画。欧米を中心にサイクルイベントを多数視察し、マウンテンバイク関連の企画立ち上げに数多く関わる。「シマノ・バイカーズフェスティバル」「ルイガノカップ」「しものせきサイクルマラソン」「ミズタニカップ」「マイクスフィッシングカップ」「CYCLE AID JAPAN」などの企画に参加する。また、海外の自転車事情を取材にイギリスやフランス、エジプト、カナダやアメリカへ行き、そこからヒントを得て自転車遊びの空白部分を埋めるように、MTBラリーレイド「とれとればいく」やブルベ「ルートエヌ」、「24時間耐久MTB CUP」を日本で初開催する。現在は、年齢性別車種不問で楽しめる「トレジャーハント・ツーリング（THT２６）」を個人や自転車ショップ、NPOや行政といった主催者の大小を問わない等身大の運営で実践中。

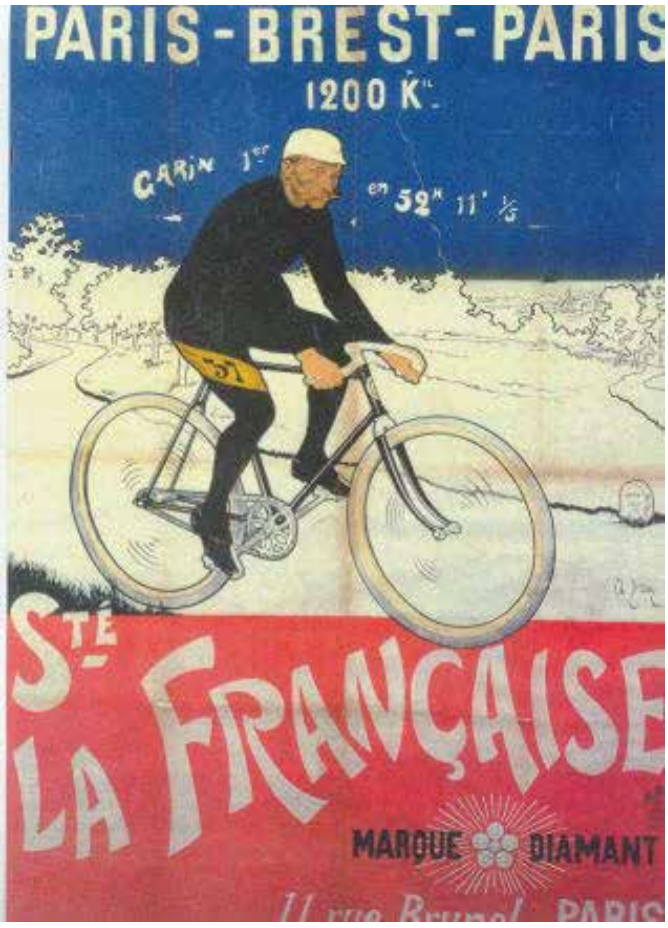
発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/
VOL.70-2
2017 年 3 月号

編集） その店長時代にも、何かイベントをやられたていたのですか？

石丸） いろいろ企画しました。それが現在の仕事の原点になっています。主なものでは「東京～糸魚川耐久ラン」「神奈川ヒルクライムシリーズ」「ホワイトマップリーディング」そして「トライ C カップ」です。

編集） 東京～糸魚川耐久ランは、一人で走るのですか？

石丸） そうです、いわゆる個人タイムトライアルなんですが、日本では耐久ランと言っています。有名なものは明治大学が行っている「東京—糸魚川」ですが、これは明治大学サイクリングクラブの活動資金を確保するために、イベントを企画して寄付を募ろうということで 1971 年から始まったそうです。毎回 200 人くらい集まり今のロングライドブームの火付け役と言っても過言ではないと思います。



パリ・ブレスト・パリのポスター広告 (1901 年)
出典：https://ja.wikipedia.org/wiki/ パリ・ブレスト・パリ

また、この「東京～糸魚川」のようなロングライドには、「センチュリーラン」や「オダックス」や「ブルベ」などがあります。最近国内でも盛んに行われている「ブルベ」とはフランス語で「認定」を意味する言葉です。そのため規定の距離を規定の時間内に完走したことを認定するロングライドのサイクリングイベントの総称となっています。そのブルベなかで最高峰とされるのが「パリ・ブレスト・パリ」で、フランスのパリからブルターニュ半島西端に位置する歴史的な港湾都市のブレストまで往復する、1200 キロを 90 時間で走るというものです。1891 年に最初に開催され、現在でも継続されている世界最古のサイクルイベントです。

編集） ブルベをはじめ、サイクルイベントには、どのような種類があるのですか？

石丸） 「サイクリング」と言った場合、皆さんはどんなイメージをされますか？普通であれば家の近所を気軽に回るものや、日本一周など、サイクルツーリングをイメージされると思います。しかし欧米ではちょっと違います。「サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般」という考え方です。

そのためブルベには世界規模の組織があり、「ツーリング・コンペティション」というカテゴリーになっていて、組織として自転車遊びを行っています。日本では馴染みがないですよね。たとえば日本から「パリ・ブレスト・パリ」に代表チームを送り込むためには、資格が必要になります。どういう資格かというと、200km、400km、600km の距離を規定時間内に走ったという証明が必要になるのです。『パリ・ブレスト・パリ』は 4 年に 1 回開催されますが、開催年の 1 月から 6 月までの間に決められた距離を完走していないと参加できません。

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.703
2016年3月号

編集）それを認定する審判員がいるのですか？

石丸）ブルベの場合は、第三者の承認が必要です。ブルベカードというものがあって、海外の場合は、24時間営業のガソリンスタンドやドライブインで提示すると、そこの店員さんが「この人はここを通過しました」というサインをしてくれます。日本にはそういう文化がないので、僕が考えたのは、コンビニで買い物をしたときのレシートをチェックするという方法です。ただ問題もあり、コンビニから“来ないでほしい”と言われることもあります。200kmくらいの距離の走行会だと100人以上集まるので、一気に来られるとコンビニのレジも大変なのです。本来、参加者は50人くらいの枠で切るべきだと思います。

編集）石丸さんが企画した「東京～糸魚川」は、いつごろから始められたのですか？

石丸）今から30年くらい前ですが、その後のMTBブームで、そのイベントで知り合った人に、シマノのプロモーション企画に参入しないかと持ち掛けられ、自転車ショップ店長からイベント業界に移りました。MTBブームにあっても日本初のブルベ「ルートエヌ」を提案し、さらに現在は「自転車さんぽ/THT26」（トレジャーハント・ツーリング26の略）などを行っています。

編集）「THT26」はいつから始まったのですか。

石丸）2005年の東京国際自転車展からです。シマノさんからも「シマノ鈴鹿ロード」の開催期に合わせてツーリングをやりたいという相談を受けたのですが、鈴鹿ロードの会場周辺は危険度が高かったので、残念ながら「シマノ鈴鹿ロード」では開催できない、という判断をしました。その代わりになるものとして考えたのが、トレジャーハント・ツーリングの前身となる、クイズポイントを自由に走る企画です。それを見た東京国際自転車展の関係者が「これを進化させて、もっと形を整えてみて」という要望を寄せてきたので、その貴重な意見を反映させながら工夫を加えて、「THT26」が始まりました。

編集）初心者でも参加しやすいイベントを発案したのですね。

石丸）僕は店長時代、中級者を対象とした自転車遊びを主に考えていましたが、ブルベタイプのロングライド・ファストランなどはかなりマニアックな方が参加するイベントです。やがてイベント企画にも関わっていくなかでサイクリング協会の方とも知り合いました。協会が対象にしているのは、どちらかというと初心者でした。そうしたなかで、「シマノ・バイカーズフェスティバル」の企画を立ち上げ海外への視察を重ね、マウンテンバイクのラリーレイドに出会いました。その時「ラリーレイドのようなイベントは誰でも参加しやすく、日本でもできるな」と直感して始めたのが、マウンテンバイクを使用する「とれとればいく」というイベントです。

「とれとればいく」は、日本で唯一のMTBによるマップリーディング・ラリーレイドです。２万５千分の１の地図を使って、コースクリエイターに指定されたトレイルを 自己責任で走破するツーリングイベントで、MTBのオリエンテーリング版と言えばわかりやすいと思います。

これもブルベと同じツーリング・コンペティションのカテゴリーですが、自動車レースのF1はクローズドサーキットで行われるレースで、WRCはオープンロードで行われるラリーであり、「とれとればいく」は同じツーリング・コンペティションでもWRCに近い位置づけです。90年代は主にこの「とれとればいく」と、「ルートエヌ（日本初のブルベ形式の企画）」を二つの柱に活動していました。そういうなかで、自分自身のなかで葛藤もありました。

（次号へ続く）

SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL ：03-5791-3203
FAX：03-5791-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.70-4
2017 年 3 月号

第 9 回ブラッシュアップ講習会

Report

第 9 回 SBAA PLUS ブラッシュアップ講習会が 2 月 8 日（水）に大阪で、また 2 月 15（水）に名古屋で開催されました。

夫々の会場には近畿、中部のみならず幅広い地域の認定者がご参集され、2 会場で 35 名の方々に受講いただきました。

講義は見識を広め、スポーツ用自転車のトータルアドバイザーとしての魅力を一層高めていただくべく、「健康」「素材・構造」「競技」「交通安全」といった多岐にわたるテーマで、各分野の専門家に行っていただきました。

なお、東京では 3 月 1 日（水）に開催予定です。

【大阪会場の様子】

講義内容	講師
中高年における運動効果	名古屋市立大学 教授　髙石鉄雄
タイヤはこうして出来ている ～素材や構造からわかることとは～	パナレーサー株式会社 課長代理　宮路佳秀
世界の自転車競技界が置かれている現状とその問題点。	一般財団法人 日本自転車普及協会 主幹調査役　栗村修
自転車事故事例と交通法規	大阪府警察本部交通部交通総務課 警視　宮永真一
	愛知県警察本部交通部交通総務課 警部　澤田洋二
	警視庁交通部交通総務課 警部　辻泰宏

TBS ラジオ・ABC ラジオ「ミラクル・サイクル・ライフ」放送内容について

平成 25 年 4 月から当会の一社提供により放送されている「ミラクル・サイクル・ライフ」の内容が本年 4 月よりリニューアルいたします。

新たな企画の中には SBAA PLUS 認定者の方にメンテナンスやお店の情報等を直接お話ししていただくコーナーもあり、先ずは一部首都圏の認定者の方に出演のご相談をさせていただいています。

ますます魅力的な番組となりますので是非お聴きください。

回	放送予定日		ゲスト	ヒキタサイクル イシイサイクル
	TBS	ABC		
第 205 回	3 月 5 日	2 月 27 日	小林廉 （モデル）	ニューヨークの自転車レーン
第 202 回	3 月 12 日	3 月 6 日		ひさびさに怒っています
第 203 回	3 月 19 日	3 月 13 日	佐々木萌詠 （女優）	北朝鮮の自転車事情
第 204 回	3 月 26 日	3 月 20 日		珍しく電動アシストの話

＜ゲスト＞

小　林　廉…モデルとして活躍中の小林さんは今グラベルロードバイクをメインに乗っているそう。太いタイヤをはいているので抵抗はロードよりもあるが、タイヤがアスファルトのデコボコも吸収する為まるで絨毯のうえを走っているような乗り心地とのこと。自転車の乗り方や交通ルールの啓発活動も行っています。

佐々木萌詠…当会が Web サイト「Cyclist」にて展開している「動画で納得、今さら聞けない自転車のキホン」にも出演中の女優。
自転車には小学校以来乗っていなかった彼女はロードバイクのタイヤの細さに驚いたそうですが、SBAA PLUS 認定者のいるショップで SBAA 制度のマークが付いている自転車を選べば安全・安心とお話しされました。
動画では今後 50km 走るというロングライドにも挑戦します。

SBAA EXPRESS

発行人
一般社団法人 自転車協会
TEL ：03-5791-3203
FAX：03-5420-2211
sbaa-bicycle.com/

VOL.70-5
2017 年 3 月号

埼玉サイクルエキスポ 2017 へ出展

Report

2 月 25 日 (土)･26 日 (日) にさいたまスーパーアリーナで開催され、約 2 万 8,000 人が来場した埼玉サイクルエキスポ 2017」（主催：埼玉県）に出展しました。

当会出展ブースでは映像放映やパネル展示、パンフレット配布などを行い、訪れた約 2,000 人の方に、BAA・SBAA マーク制度を通じた「自転車の安全利用」の啓発を行いました。

【左から山﨑副理事長、渡辺理事長、高橋専務理事】

「動画で納得、今さら聞けない自転車のキホン」第 4 回動画を公開

Information

SBAA 広報の一環として Web サイト「Cyclist」にて展開している「動画で納得、今さら聞けない自転車のキホン」の第 4 回動画を公開しました。

第 4 回では自動車からの視点なども取り入れ、公道を走る上で不可欠な安全確保について紹介しています。

動画は「Cyclist」http://cyclist.sanspo.com/ にてご覧いただけます。

【第 4 回公開の動画映像】

「教えて！自転車のスゴイ人」メンテナンス動画を追加

Information

【メンテナンス動画の映像】

昨年末リニューアルされたスポーツ BAA スペシャルサイト「教えて！自転車のスゴイ人」http://sbaa-bicycle.com/sbaa_sp/ では特別賛助会員である横須賀のサイクルショップショーワ様にご協力いただき、新コンテンツ「メンテナンス動画」を展開しております。2 月は新たに「走行前の点検」と「ホイールの着脱」を加えました。ブレーキやタイヤの状態チェックの仕方、クイックレバーの理想的な位置等について解りやすく紹介しています。